

▲樹里安だより

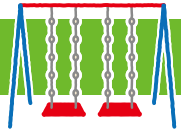
ジュリアン

2018年
Vol.38



— 植木屋さんのおすすめ植物（その3） — モンステラ

大きな切れ目のある南国風の葉が特徴的で、観葉植物として人気が高い。メキシコ、中央アメリカが原生地である。樹木その他の物に付着して伸張する多年生つる性植物で、高さ7～8 mに達する。茎の部分から褐色の気根を多数下垂し、葉柄の取れた跡は節状になっている。果実は熟すと食用になるが、バナナのような香りと味で少しえぐ味がある。栽培に当たっては、半日陰になる場所に置くのが好ましい。また、越冬させるためには最低5℃～10℃ほどの温度が必要である。水やりは一般的な鉢物と同程度でよい。



斜面林を残して整備

2つの広場を持つ戸塚下台公園

斜面林の下部とその上部に設置された小じんまりした都市公園だ。住宅や事業所などが密集した地域の子供たちの遊び場を主目的に、平成18年3月に開園した。広さは両公園と園路も含めて17,500㎡で、工事費は4千万円。

斜面林のすそを利用した下部の公園は、オタマジャクシが体をくねらしたような形で造成されている。頭部の部分が広さ3,570㎡の多目的広場となっており、木製複合遊具、二連ブランコ、雲梯、バランス遊具、シーソー、背のばし・あんばベンチなど、たくさんの遊具が備えられている。

広場の周りには、サクラ、ウメ、ツツジ、アジサイ、ツバキ、サザンカなどいろいろな種類の花木が植栽されており、春は花、夏は新緑、秋は紅葉と四季折々を美しく飾り、地域の人たちを楽しませている。

この広場から斜面林のすそに沿って200mの園路が設けられており、斜面林には竹林とコナラ、シラカシ、ムクノキ、モミジなどが一群の林となって生い茂っている。このうち竹林は、隣接する戸塚南小学校を中心にボランティア活動によって間伐などの作業が行われている。また、斜面林の中にはカブトムシを養殖する施設も設けられ、同小の児童たちの協力を得て育てているという特色も持っている。

園路を挟んで斜面林の反対側には、整備された水路が園路に沿って伸びており、末端は直径5mほどの池となっている。池には春先にアカガエルなどが集まり、産卵する姿も見られるので「カエルの池」と子供達に呼ばれている。

上と下の公園を結ぶ階段は園路の末尾にあり、手すりのある頑丈な作りだが、すべて木製で周囲の自然林によくマッチしている。

上部の公園は、広さ712㎡の遊戯広場となっている。屋根までの高さ6.25mの木製やぐらのほか、バランス遊具、ベンチなどや水飲場、トイレなどが備えられている。

この公園は、豊かな竹林や樹木を持つ斜面林とこの水路や池がよく融合して、都市公園ながらも自然公園的な雰囲気をかもし出しており、子供だけでなく大人たちの散策の場ともなっている。



ウッドデッキ階段



園路・水路

公園情報

- ① 開園年月日 平成18年3月31日
- ② 所在地 川口市戸塚南4-9
- ③ 面積 17,500㎡
- ④ 植栽数量

高木	39種	429本
中木	9種	138本
低木	16種	4943.8㎡
- ⑤ 公園の種別 近隣公園



多目的広場



カエルの池



展望やぐら



キツネモニュメント



遊戯広場



葉・種子は漢方薬に活用

初夏の甘い香り漂わすビワ

晩秋から初冬にかけて開花・結実し、6月ごろ黄熟して食べごろとなる果実は、甘味と酸味のある初夏の味として好まれてきた。

中国中南部地方原産のバラ科の常緑中高木で、日本では大分、山口、福井県などの山地で見られる。だが、日本原産か中国から入ってきたものか定かではなく、人為的には栽培されていないようだ。

栽培は、古文書によると平安時代から行われたと記されているが、本格的な農園栽培が始まったのは江戸時代から明治にかけてのことである。中国から導入された大果種の種子をまいて育て、その中から外観と食味の優れた品種を育成したのがきっかけで、代表作は「茂木ビワ」、「田中ビワ」と呼ばれた。初夏の果物の種類が少ない時代でもあり、これがきっかけで栽培面積は急速に増え、戦前は四国、九州を中心に13県にまで広まった。

軌道に乗った農園栽培は第二次大戦を境に受難時代を迎えた。戦時中ビワはぜいたく品として栽培を抑えられ、戦後は食糧難のため主要作物への転作が余儀なくされた。さらに昭和30年代に入るとミカンの増殖が盛んに行われ、ビワ園がミカン園へと変わり、戦前には4千haを越えていた栽培面積は戦後は半分以下に減少してしまった。しかし、これからは新品種の開発やハウス栽培の導入で栽培は伸びていくものと期待がかけられているという。

ビワの木は昔「屋敷内に植え



(ビワ)

ると不幸を呼び、病気になるったり、若死する」と嫌われもの扱いされた。ビワの葉は長さ20センチ、幅10センチと大きく常緑であるため、一年中家の中には日が差し込まないので陰湿で不衛生だというのが理由だった。現代人ならバカバカしい話と一笑に付すが、当時はこの風聞が栽培の大きな妨げになったと記録に残されている。

だが、この大きな葉は古くから薬用として使われていた。漢方で「枇杷葉(び

わば)」と称して煎じたものを鎮咳・健胃・利尿作用として、あせも、かぶれ、疲れなどには浴湯料として用いられてきた。葉だけでなく幹も粘り強く折れにくい性質が生かされ、櫛・木刀・机・印材などに使われている。

晩秋から初冬のころ枝先に小さい白い花を房状に咲かせると、甘い香りとたっぷりの蜜に誘われて、メジロ・ヒヨドリ・ミツバチ・クマバチなどがやってくる。ウグイス・エナガ・シジュウガラもアブラムシ・ケムシ類の捕食に飛来する。昆虫や野鳥に好かれる木でもある。

昨今は、いろいろな植物が漢方薬として利用されていることから、ビワの葉や種子も保健薬に役立てようと、栽培産地では、ビワ茶・ビワ酒・ビワリキュールや石けん・入浴剤などの開発を進め、ビワ栽培の伸展を目指している。

ちなみに、ビワの語源は楽器の「琵琶(びわ)」から付けられた。だ円形のビワの果実が楽器の琵琶に似ているためだそう。





記念樹にふさわしい木とそのいわれ

創立記念日

ユズリハ

(ユズリハ科ユズリハ属)
(常緑広葉樹・高木・中庸樹・雌雄異株)



新芽が出てから古葉を散らすので、代を「ゆずる葉」が語源だが、そこから代々に引き継ぐ繁栄の象徴として、正月には欠かせない木となった。常緑樹は基本的にはみな「ゆずり葉」であるのに、なぜこの木だけが特にユズリハと呼ばれるかは、古い葉と新しい葉の入れ替わりが特に目立つからだろうといわれる。万葉集にも歌われているが、別名「親子草」もおそらく新旧の交代をあらわしたもの。永世変わらず続くことを願って。

1. 特徴

開花期 4～5月、結実期 10～11月。生長はややおそい。他にヒメユズリハ、エゾユズリハなどがある。

2. 植えるときの注意

時期 4月・6月・9月

場所 湿り気があり、半日陰になるような所を好む。

3. 管理のポイント

萌芽力に乏しいのであまりせん定はしない。



川口緑化センターの主なイベント開催結果報告

1 第15回駒込・安行植木まつり

平成29年4月29日（土/祝）・30日（日）

新旧の植木の里、駒込と安行の交流及び緑化の普及啓発を目的として、今年も駒込駅前の染井吉野桜記念公園において、表題の事業を開催いたしました。会期中は安行特産の花植木の展示・販売を始め、園芸デモンストレーションや無料鉢花配布等を実施し、来場者には大変好評でした。



2 第26回川口市安行の花・緑と物産展示即売会

平成29年5月10日（水）～12日（金）

「新宿駅西口広場イベントコーナー」において今年で26回目となる、川口市安行の花・緑と物産展示即売会を開催いたしました。会期中は市内の緑化団体による川口安行特産の花植木の展示・販売やアジサイ、カーネーションなど、季節のお花が当たる抽選会を実施し、多くのお客様にご来場いただきました。



3 常緑樹の剪定講習会

平成29年6月3日（土）

安行の伝統技術の紹介、継承を目的とした、技能・伝承習得研修会の一環として、プロの植木職人が一般参加者を対象に常緑樹の剪定技術を教える、表題の講習会を今年も開催いたしました。

参加者には資料を中心とした講義と実際にサザンカを選定する実技を通じて知識と技術をしっかりと学んでいただきました。



4 玉掛け技能講習会

平成29年6月9日（金）～11日（日）

労働安全知識と災害防止のための建設機械等における知識並びに操作技術の普及による造園業の資質向上のため、玉掛け技術講習会を3日間開催いたしました。当日は造園業に従事される方を中心とした参加者へ、知識の普及が図られました。



5 第8回川口安行の植木・盆栽展 麻布十番

平成29年9月23日（土/祝）・24日（日）

東京都港区麻布十番において、第8回目となりました、「川口安行の植木・盆栽展 麻布十番」を開催いたしました。会期中は市内の緑化団体による植木・盆栽・四季彩マットの展示販売を行うとともに、盆栽の夜間展示や、盆栽・園芸デモンストレーション等を実施しました。英語通訳によるサポートもあり、当日は多くの外国人にもご来場いただきました。





神話・伝説の花と植物

(その6)

サクラの花は農業の神の座

語源に「サ→座、クラ→蔵」とする説があり、サクラが咲き出すと農業の神がこの座に降臨する。昔の農家の人たちは、これが今年の農業開始のお告げとして稲作の準備に取りかかったという。また、サクラの咲く時期に疫病が流行したので、花が辺り一面に散るように疫病がまんえんするのを防ぐため、花見ではなく「鎮花祭」^{はなしすめまつり}を催し疫病の活動を抑えたと伝えられている。

恋占いにタンポポの花

花言葉は「田園の神託」。この花言葉はキク科の花を使った恋占いからきており、とくに身近にあるタンポポの花がよく使われた。「彼は私を愛している」といって花弁を一枚取り、次に「彼は私を愛していない」といって、また花弁を一枚取る。これをくり返していき最後に残った花弁でどちらかがわかるという占い。日本でもこんな遊びが流行っていたときがあった。

宝庫の鍵を持つセイヨウサクラソウ

伸びた花茎から数輪の花を下向きに咲かせる姿を「鍵の花」に見立てた伝説がノルウェーにいくつか残っている。その一つに千本目に摘み取る花は「鍵の花」といわれ、この花を岩に押し当てると秘密の扉が開いて、魔法の国をのぞき見することができる。そこには金や宝石などの宝物がたくさん入っており宝を持ち出すことができる。だが、欲を出しすぎて抱えきれないほどの宝を持ち出そうとすると、鍵の花を落として魔法の国は消えてしまう。手にした宝もなくなり、そこはただの草原に戻ってしまうという。

悲しむ母親慰めたデージーの花

アンデルセンの童話で、この花の別名ヒナギクとひばりの美しい物語はよく知られているが、ヨーロッパには悲しみと慈しみに満ちた伝説がある。ある日のこと赤ちゃんを亡くした母親が悲しみ沈んでいると、突然、女友だちが「見てごらん。虹色の雲の中の星でああなたの赤ちゃんが花をまいているよ。中心が金色でまわりは銀色で少し紅をさしている花よ」。母親が顔を上げて見ると、牧場にはそよ風にゆられて沢山の小さなデージーの花が咲いていた。まるで子供が遊んでいるような風景に母親は悲しみを乗り越え、いとしい心でやすらぎをおぼえていたという。

雷よけのキンギョソウ

雷神や魔女を追払う力をもっていたといわれている。花に強い匂いがあるからで、悪臭や異臭だけでなく、なぜか花の匂いも魔よけに役立つと信じられていたという。



ジュリアン

樹里安

川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」

発行日：平成 30 年 3 月 15 日

発行：公益財団法人 川口緑化センター

〒334-0058 川口市安行領家 844-2

TEL.048-296-4021

ホームページ：http://www.jurian.or.jp/